

テーマ：貿易統計（2012年8月）

発表日：2012年9月20日（木）

～輸出の弱い動きが続く～

第一生命経済研究所 経済調査部  
 担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
 TEL：03-5221-4528

	貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量		
			輸出金額	輸入金額	アメリカ			EU	アジア				
	原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
11	1月	▲ 4972	3190	1.4	12.5	2.8	14.4	13.4	▲ 1.8	11.2	5.9	7.0	13.6
	2月	6370	4136	9.0	10.3	9.8	3.4	21.5	11.0	4.9	10.8	10.2	4.0
	3月	1709	▲ 591	▲ 2.4	12.2	▲ 3.1	0.5	7.7	▲ 1.3	5.5	1.6	▲ 4.8	14.4
	4月	▲ 4777	▲ 6793	▲ 12.4	9.2	▲ 11.5	▲ 21.5	▲ 8.9	▲ 6.4	1.3	7.5	19.1	1.7
	5月	▲ 8607	▲ 5198	▲ 10.3	12.4	▲ 10.5	▲ 10.1	▲ 12.5	▲ 7.9	5.5	13.6	5.5	6.1
	6月	645	▲ 1595	▲ 1.6	9.9	▲ 2.6	▲ 2.5	1.9	▲ 2.5	1.7	▲ 1.3	▲ 0.8	5.1
	7月	697	▲ 1641	▲ 3.3	9.9	▲ 5.2	▲ 5.6	1.8	▲ 4.7	▲ 2.6	▲ 4.3	2.7	0.5
	8月	▲ 7775	▲ 2952	2.8	19.2	0.9	6.2	4.2	▲ 1.8	6.1	12.3	9.9	8.6
	9月	2888	▲ 722	2.3	12.2	1.4	▲ 0.4	3.2	▲ 2.7	1.0	3.7	10.4	0.6
	10月	▲ 2830	▲ 3969	▲ 3.8	17.9	▲ 4.0	▲ 4.7	▲ 2.0	▲ 7.2	6.0	14.3	9.6	5.0
	11月	▲ 6912	▲ 5261	▲ 4.5	11.5	▲ 4.4	▲ 3.6	▲ 11.2	▲ 9.5	▲ 1.0	▲ 3.6	22.9	▲ 5.5
	12月	▲ 2083	▲ 4697	▲ 8.0	8.2	▲ 6.6	2.3	▲ 13.1	▲ 11.1	▲ 0.7	6.0	4.3	▲ 2.5
12	1月	▲ 14815	▲ 4944	▲ 9.2	9.6	▲ 10.1	0.1	▲ 9.8	▲ 14.9	3.1	7.8	4.2	2.9
	2月	254	▲ 3042	▲ 2.7	9.3	▲ 3.8	14.8	▲ 11.4	▲ 8.0	3.2	5.2	11.0	▲ 0.4
	3月	▲ 871	▲ 5971	5.9	10.6	3.7	20.3	▲ 10.4	▲ 0.7	3.1	14.3	14.8	▲ 1.4
	4月	▲ 5239	▲ 4770	7.9	8.1	4.7	37.4	▲ 5.3	▲ 4.2	1.9	7.8	▲ 4.2	▲ 3.7
	5月	▲ 9172	▲ 6418	10.0	9.4	9.3	39.5	1.0	2.7	8.5	5.4	9.6	6.6
	6月	592	▲ 3482	▲ 2.3	▲ 2.2	▲ 2.3	10.8	▲ 18.6	▲ 4.2	▲ 0.7	9.2	1.9	▲ 5.2
	7月	▲ 5189	▲ 3719	▲ 8.1	2.1	▲ 10.2	0.9	▲ 23.5	▲ 9.6	7.0	19.5	10.0	3.1
	8月	▲ 7541	▲ 4728	▲ 5.8	▲ 5.4	▲ 4.3	12.3	▲ 19.2	▲ 6.2	▲ 2.1	3.3	▲ 2.8	▲ 7.3

(出所)財務省「貿易統計」

## ○ 輸出は弱い動き

財務省より発表された2012年8月の貿易統計では、輸出金額が前年比▲5.8%、輸入金額が同▲5.4%、貿易収支は7541億円の赤字となった。季節調整値でみると輸出金額が前月比▲2.1%、輸入金額が同▲0.2%、貿易収支額は▲4728億円である。輸出の落ち込みが大きかったことから、貿易赤字額（季調値）は前月の▲3719億円から拡大した（18ヶ月連続の赤字）。輸入は足元で頭打ちになっているものの、ここきての輸出が弱まっていることが貿易収支の悪化に繋がっている。貿易収支が黒字に転じるには時間がかかりそうだ。

8月も輸出は弱かった。物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）は前月比▲1.8%と（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）、5月（同▲0.2%）、6月（同▲1.8%）、7月（同▲1.0%）に続いて4ヶ月連続の減少となった。7-8月平均の水準は4-6月期を3.2%下回っており、7-9月期の輸出は前期比で3四半期ぶりの減少となる可能性が高い。7-9月期の外需寄与度もマイナスになると思われる。

輸出は、昨年末にタイ洪水の影響で落ち込んだ後、4月まで緩やかに持ち直していたが、足元では弱い動きになっている。海外経済の足取りが鈍いことや円高などが悪影響を与えているとみられる。地域別では、欧州向け、中国向けの低迷が続いていることに加え、春まで輸出を牽引していた米国向け輸出が、自動車輸出の悪化により足元で減速していることが目立つ。

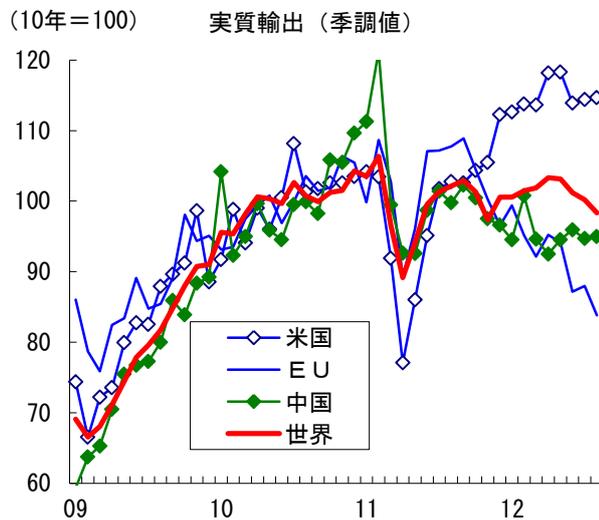
好調だった個人消費に足元で陰りが見えていることに加え、輸出も悪化に転じており、景気はここきて減速感を強めている。7-9月期は、輸出、個人消費、設備投資が揃って減少すると予想され、GDP成長率はマイナスに転じる可能性が高い。

## ○ 欧州向けが弱い。米国向け輸出も頭打ち。中国向けも持ち直しには至らず

8月の実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比+0.3%、EU向けが同▲4.7%、中国向けが同+0.3%だった。米国向けは7月（同+0.4%）に続いて微増だが、6月に同▲3.7%と減少した後の戻りは弱く、7-8月平均の水準は4-6月期を1.9%下回っている。自動車輸出が一服していることの影響が大きい。米国向け自動車輸出は、大震災やタイ洪水後に現地で不足した在庫を復元するための需要もあって米国内の需要以上に伸びていたが、こうした在庫復元も一巡した模様である。今後の輸出は需要見合いの伸びにとどまるとみられ、米国向け輸出にこれまでのような牽引役は期待できないだろう。

EU向け輸出は前月比▲4.7%（7月：同+0.7%）と大幅に減少した。7-8月平均の水準は4-6月期を6.8%も下回っており、大幅な減少傾向が持続している。欧州経済の悪化に歯止めがかかる兆しが見えないことを踏まえると、先行きも欧州向け輸出は減少する可能性が高いだろう。

中国向けは前月比+0.3%と微増だった（7月：同▲1.3%）。均してみれば底ばいといったところだろう（7-8月平均の水準は4-6月期を0.6%上回る）。一時期に比べると状況は改善しており、輸出の減少傾向に歯止めはかかりつつあるようだが、依然持ち直しには至っていない。



(出所) 財務省「貿易統計」

(注) 実質化と季節調整は第一生命経済研究所